

ルクセンブルク経済・金融情勢（各種報道取りまとめ：2015年8月前半）

1. 経済

- 2015年1月から4月までのルクセンブルクとロシアの貿易額は、4,750万米ドル（前年同期比▲32%）、EUとロシアの貿易額は815億米ドル（前年同期比▲37.7%）。（1日付ヴォルト紙及び7月2日付ロシア外務省コミュニケ）
- ブリュッセルに本部を置くシンクタンク Institut économique Molinariによると、ルクセンブルクは一人当たり純所得（注：所得から租税負担及び社会保険費用を除いたもの）が35,345ユーロで、EU28ヶ国中1位。（1日付ヴォルト紙）
- シュナイダー副首相兼経済相は、太陽光発電によって生成されたエネルギーに対する報償制度の改訂を発表。30キロワット以下の発電所のみを対象とする現行制度を改め、30-200キロワットの集合的な発電や500キロワット以上の発電所を新たに対象とする。EUの研究・イノベーションプログラムである Horizon 2020 の枠組みの下、ルクセンブルクは電力使用量に占める再生可能エネルギーの割合を11%に引き上げることを目指している（注：2013年時点で4.32%）。（3日付経済省コミュニケ）
- 2015年7月のインフレ率は年率+0.6%（前月は+0.7%）。（5日付統計局プレスリリース）
- 当国政府は、2016年から2020年の間に、研究、開発・イノベーション、環境保護・地域プロジェクトの3分野に対して合計3.35億ユーロを当てる予定と発表。（7日付政府広報）
- カーゴルクス社とオマーン航空は、11日、インド南部のチェンナイ空港への共同運行について週2便へ増便すると発表。両社は本年4月からパートナーシップ関係にある。（11日付カーゴルクス社プレスリリース）
- ルクセンブルク政府観光局によると、2014年の当国観光産業は記録的な成長をみせ、特にユースホステルの宿泊者数が増加（+7.3%）、ホテル宿泊者数も+1.3%に。今後は、昨年+7%の伸びを見せた商用旅行分野を重点的にプロモーションする予定。新たなコンセプトとして、移動が困難な人や高齢者、子供を主なターゲットとする「tourism for all」も提案。（12日付ターゲブラット紙）
- 中央銀行によるとは、ルクセンブルクの約28%の世帯が、居住用にはほとんど利用しない第2の不動産を所有。最も多く所有されているのは別荘や賃貸物件で、賃貸料収入は家主の全収入の約17%に当たる。6軒に1軒は空き屋となっている。（13日付ヴォルト紙）

2. 金融

- 中央銀行は2014年の年次報告を公表。総資産は1,170億ユーロ（前年比▲1.2%）で、純利益は164万ユーロ（前年比▲14%）。（4日付ターゲブラット紙）
- スイスの保険会社Balaise Groupは、HDI-Gerling Assurance SA Luxembourgを買収する意向。ルクセンブルクの保険市場で上位3社入りを目指す。（5日付Letzebuenger Journal）
- BCEE（ルクセンブルク国立貯蓄銀行）の2015年上半期の純利益は1.55億ユーロ（前年同期比+5.7%）。（5日付BCEEプレスリリース）
- 2015年第1四半期末における全世界の投資ファンド総額37.8兆ユーロのうち、ルクセンブルクの投資ファンド額は3.5兆ユーロ（前期末比+13.8%）で、米国に次いで世界第2位。（8日付ターゲブラット紙）

3. 政府

- グラメーニャ財務相、14日、ブリュッセルにてユーログループに出席。（13日付政府広報及び14日付Chronicle.lu電子版）

※当国政府機関の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。